○タイムスの日露戰爭批評（五十三）

（五月三十日所論續き）

金州の戰（下）

日本の軍隊みの恐るべき障礙に逢着するに當りて其司令官は直に之に襲擊を試み以て其兵を甚だしき危險の地に陷るゝを爲さず露國の意志を偵知するに先づ數日を費したるは深く異とするを要せざる事なり其之を偵知したる方法に至りては自ら研究に値するものあり日本軍隊の學識才幹は之によりて其至良なるの實即ち現はれたり此間に於て軍は徐々其進軍を行ひ以て敵陣に接近しサムブソン山より南山に下らんとするの斷崖の北方に當りて凹窪を張め之に伏在して洪敵の時を待てり其間露軍は依然金州城に占據し居たり裏遼東に至りては察易く判すべからず斯くて其初めて執りたる行動は保持するの必要なかりし陣地よりの遁走なり是れ即ち二十五日の事なり狙し露軍は同時に南山の砲兵をして敵の注意を牽制せしめ難なくして之を行ふを得たり金州の損失は決して露國陣地の安固に影響するものにあらず之に依りて些か日本に其地歩を進めしめたるのみ本戰は尚ほ闘はれざるべからず司令官の斯尚は用ひられざるべからず司令官

にして若し重砲の來着を待つに決したりとせば此戰は其生じたるよりも尚ほ數日又は數週の後に起りたらざるべからざるなり然るに一方に於ては夏季將に迫らんとし五六週日にして雨季遂に至らんとす然れども司令官若し其攻撃を行ひ之に敗れたりとせば其時にも尚ほ等しく戰局の遲滯は之を免る能はずして而も此場合には數千人の損失之に伴ふ其危害更に大なりとす此時に際する司令官の責任重且つ大なるを知るものは貴に其全運命を賭するに決したる其膽略を認知して之に歎稱を吝むと能はざるなり

廿五日夕に至り砲艦筑紫、濟遠、赤城、鳥海等第一水雷艦隊を率ゐて金州灣に逸せり内濟遠は往時の清國軍艦にして二千二百六十四噸の排水量を有し六吋砲一門、八吋砲二門を備ふ之を建造したるものはステッチン造船所にして實に又日清戰爭の一老朽艦にして排水千三百七ウイック建造の一老朽艦にして排水千三百七十噸十吋クルップ砲二門及び四十斤砲四門を備ふ赤城は排水六百噸、四、七吋砲四門を備へ鳥海亦六百噸、八吋砲一門と四、七吋砲一門とを備ふ斯くの如くにして中日傑砲十五門露國の攻城砲五十門に對し之を使用するゝを得るに至れり幸に此等砲艦の可動力優越なりしに依りて日本の砲門殊に右二小艦の砲は頗る有力に總進軍の側面を掩護し併せて其正面を掩護するを得たり

五月二十六日拂曉よりして攻撃は開始され右諸砲艦は灣内に進航して蘇家屯れよび其後方の砲壘を砲撃し赤城、鳥海は殊に岸頭に近迫して終日勇敢に其砲撃を繼續し當日の成功に貢献する所大なりし

陸軍に至りては早朝既に發足し午前二時三十五分に於て戰闘を開始し五時二十分に於て金州城を占領し砲艦の側面砲火に依りて掩護され且つサムブソン山脊の野砲に掩護され地勢の許す限り其正面を廣濶にして更に其前進を繼續せり第三師團左翼にあり第一師團中央より進み第四師團即ち之が右翼に當る歩兵戰闘の順序茲に叙述するは煩なるの嫌あるを以て即ち之を省かん激烈なる砲戰の後午前十一時に至り露國の主要砲臺は既に沈默せり然るも防禦軍は掩壘の内にありて尚ほ防戰し攻撃軍之に肉薄するも其築造物の前面に堆積したる障礙は之を破るを能はず銃眼より發射する數彈は之を屠滅するゝと能はずして日本軍の左側面に當りて露國砲艦また之が歩兵攻撃を防止するに於て要用なる其任務を遂行せり是に於てか再び戰場にある砲兵の總砲撃を煩はす遂に至れり此砲火に依りて露軍は漸く退却を初め十六時間の間斷なき戰闘の後午後七時頃に至り第四師團の日本歩兵先づ敵壘に突入

を擇びて此灣中に留まり以て此地に起れる戰闘に有力なる助勢を與ふるゝを得たり陣地の左側に當りて金州灣は日本海軍の爲さんと欲する所に縱なりしも此方面に於ける海底水淺きが爲め淺吃水の小砲艦にあらざれば之に接近するゝと能はず此等の砲艦に對しては其之を瞰制するの位置にある露國の重砲臺必ず淺きを爲め淺吃水の小砲艦にあらざれば之に接近するゝと能はず此等の砲艦に對しては其之を瞰制するの位置にある露國の重砲臺必ず大陸方面に於ては實に一箇の露國に不利なる地の存したりしは軍實なり即ち南山の東四哩にサムブソン山なるものあり海拔二千二百呎を超ゆ若干の時日を經ば之が西面の山腹に當りて防禦軍の砲火を屈伏するに堪へたる攻撃軍の砲臺を築造するゝを得べしサムブソン山は即ち全然露國陣地を瞰制するものにして日本の軍司令官その山の一地點を擇び戰闘中之を其親戰地に供用したるは我等その頗る至當なるを見る又戰場の此部面にありたる其野砲は必ず露國砲兵の占領せる其位置に對し之を瞰制するの利便を獲得したるを疑はざるなり

然れども之を除くの外は露國陣地一として其軍に便ならざるものなし其陣地は狹小なり强大なる築壘を有す其側面は安全なり且つ之が守備隊は之を防守するに足れるよりは尚ほ寧ろ其上に餘れり

八千乃至一萬二千の兵を有する露國の一箇師團若し五十門又は五十門以上の攻城砲及び十六門の速射野砲を擁して而も尚ほ唯正面攻撃より他の手段を有せざる平野の歩兵に對し其突撃に抗して强大に築壘され且つ側面に於て安固なる三千碼の前面を保持するゝと能はざりしせば如何なる陣地か露國師團に成効を期して之を防守せしむるゝを得べき我等殆ど之を發見するに苦む

（三十日所論未完）

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

し他の師團亦之に次ぎ漸次その金陣地を占領せり五百以上の露兵之に死し諸口徑の加農砲六十八門及び機關砲一門戰利品として勝者の手に落ちたるは即ち露軍防戰の頑強なりしと且つ日本勝利の十全なりしを證し得て餘りあるものなり

斯くの如き大成功は大なる犧牲を用ふるにあらざれば之を獲るみを能はず日本の損害三千五百人に達したるは又怪しむを要せず死者の數に優りて之を判ずるに露國側の損害は必ず二千の上に出づべく此篇面戰場のみよりして既に約千五百の負傷兵あり要塞病院の此等負傷兵に依り慘ましめらるゝ事に依りて旅順日の攻撃は即ち初められたるなり

終日の戰鬪その勢苦大なるものありしに關せず日本兵は二十七日早朝之が追驅を行ひ午前中に於て既に南劇嶺を占領せり

此地點よりして敗餘の露兵は旅順日方面に驅逐され南三十里僅に起えて尚ほ其追撃を受けたり南三十里僅は酒山の西南八哩にありダルニー支線の停車場の存する處なり唯今頃は思ふにダルニーも亦遂に占領されたるべく此方向に退却したる露兵者しかりたりとせば彼等は盡く虜となりたるべきなり勝利は正しく十全なりしものゝ如く敗績は思ひの外に亦甚だしかりしに似たり

南山の旅順日にあらざるは無論なり然れども出戰に於て日本の現はしたる勇氣と耐忍の著しきものあるが上みの以往旅順日に加ふる其攻撃は之よりも遙に容易なるものあるを以て今や其要塞と其艦隊との本國の露人たるものを安全につきて憂に戰慄せざらんと欲するも亦得べからざるなり

戰場の武功に依りて貴族に列せられたるものの中金州卿の名は蓋し其最も誇るべき稱號の一たらざるべからず（英國にては貴族は皆土地の名を以て之を其爵位の稱號に連結せしむ）印度に武功を得たるロバーツ元帥のカンダハル卿を稱しスーダンの戰功に依れるキッチェナー大將のカートーム卿を以て稱せらるゝなど皆この例なり）金州を以て之を稱せば其意義は其勝想と於て一の紋知たるものあるなり強大新鋭にして且つ自信ある露國軍隊は殆んど近づくべからざる堅壘の下に鞏固に布陣し且つ怖るべく優勢なる砲兵に支持され苟事自軍に利なりしに拘はらず單に一日内に於て等閑の如く其堡壘外に掃蕩し蓋し露國軍隊は未だ嘗て斯くの如き侮慢を以て遇されたるみどなく大帝國の武名亦未だ曾て斯の如く激烈に振盪されたるみどなし我等は日本の海軍が此場合に於ても亦其鴨綠江及び其他の場合に於けるが如く卓越なる共同の功を奉げ互に借む所なく有力に相助勢したるを特筆し以て之を賞揚するを忘るべからず陸海兩軍同時に斯くの如き高度に進歩したるものは我等之を陸海戰史に求むるに更に其例を見る能はず

日本は今其だしき抵抗を蒙ふるみどなくして日本は今其だしき抵抗を蒙ふるみどなくして旅順日に其進軍を繼行し陸面よりして同地の旅順日に其進軍を繼行し陸面よりして同地の密封を完成するみどを得べし日本の歩兵は其近日著々しく行ひたるが如き悲慘なる任務を復た再び行はざるべからざるに至るみどなく復た再び行はざるべからざるに至るみどなく

ん重砲のダルニー揚陸、選擇餌地への其運送高地の砲壘築造此等は時日を要するの行動たらざるべからず再び海軍の助力を要するに至らざるは即ち此行動を完了したる時なり其時に至らば旅順日は再び爆彈の集窩たるべし露國は其に日本海軍の十二吋砲能く其要塞を一端より一端まで破壞するに堪へたるを知れり此砲火に加ふるに陸上攻撃砲臺の著實なる砲撃を以てす其時に至らば旅順日たるもの宜しく其月桂に心を用ひて可なり艦隊の遺蘗に至りては抑〻又何の能かあらん

日本をして若し單に陸面より旅順日を封鎖せんとするものならしむれば初めより金州の戰を行はざりしなるべしサムブソン山及び金州の周圍を防禦せば遂に關東半嶋の防禦軍をして大損害を受くるにあらざれば之を逸出するみと能はざらしむるを得べし是を以てか金州の大戰は即ち日本の意志此にあらざるを示すものなりとすべし旅順日の防禦兵に取りては蓋し不吉の表兆たらざるべからず

金州の戰は最早や災害にあらず飜に敗衂なり敗衂恰も露帝の即位紀念祝日に當りて聯彼得堡に達す露都忽ち憂愁に陷りたりと云ふ軍ち驚くを要せず惡政策は惡戰爭を行はしむ外交既に其禍の爲めに此汚辱の酒盃を供ふ淩辱に至るまで飲まれざれば止まざるなり

此打擊は果してクロパトキン將軍の計策に何等かの變更を與ふるや如何と云ふもの即ち自下注意の中心なり戰場に於ける其難備の綿密なりしよりも之を察すればクロパトキン將軍金州に於て戰ふべき意志につきては曾て之を聞知せざりしに似たり此第二回の孤立、その軍隊一分子の此第二回敗戰、之につきては亘多の說明なかるべからずクロパトキンの陣中にある一佛國通信員が優美に之を描きたるが如くクロパトキン將軍果して『泰然として』其位置に之を傍觀すべきや將た或は勇を鼓し黑木將軍の甲に『報復の刃』を以て其忠國の志を表明すべきや其は將來に至らざれば之を知るみと能はず然れども初頭に於て一物も其大に過ぐるものあるの實を示さゞりし軍隊は一團づゝ漸次に潰滅して遂に其終局に達せざるを得ざるべきなり

若しクロパトキン將軍にして戰の未だ交へられざりし前に當り數字上「露國の威力」と「榜聲」とに價せざる軍隊を提げ猛然前方に進み出でたらんには爲覺なる威嚴を以て其意を達するみと或は之を得たりしならん然るも振慘なる二回の敗戰を經百六門の砲を失ひ三箇師團の中堅を路傍破壞し盡くされ五千の死傷者を出し旅順日をして將に死生の瀕瀕を初めざるべからざるに至らしめたる今日退却は尚ほ之を行ふの餘地あるべしと雖も其運動に伴ふ勇姿と威嚴は最早や之を其文字の示す所に副はむるみと能はず

明治三十七年七月十八日　時事

○タイムスの日露戰爭批評（五十四）

タイムス軍事投書家の其六月三日發行の紙上に論じたる所左の如し

露國將軍の苦境（一）

絶東に於ける露國の政策に對して我等の抱懷する意見縱し如何なるに關せず我等は露國總指揮官の面前に横はれる業務に對しては其顏る困難なるものあるを認めざるべからず

戰前に於て公平なる外國觀察者の眼に早く既に明白なりし事實は今遂に人の目にも漸く見え初むるに至りたらざるを得ず事實とは他にあらず軍事上の問題を露國政府の意見と抱負とに適合して解決せんとするには何れにせよ長時日を費したる上にて而る後指揮の才能を發揚し兵卒の優倹なる勇氣と智力とを發揚し國民多數の殆ど盡きざる耐忍を發揚したる時ならざるべからずと云ふ是れなり

其初めより惡意を以て迎へらるゝを知りながら露國人又は露國政府に對し忠告又は對言を試みるは蓋しアングロサクソン批評家の爲すべき業にはあらず然れども露國軍隊の司令官が之に苦める難境を推究して今後出異變に當める戰役中その司令官の用ふる方策を判ずるの料に供するは自ら軍事上の趣味なしとせず戰時司令官を圍繞する重大なる危懼の一例とし且つは參謀本部に高等なる軍事的才能の存在を切要とする一事例として今日の戰局は試に類例なき趣味を有するものなりとす

クロパトキン將軍は一般より溢るゝ計の信望を受けて其司令權を取り皇帝に依り軍隊に依り且つ國民に依りて信任され今尚ほ其信任を失はず露國思想の發表機關は近日災害著に至るに關せず倦むことなくして堅く此信任を保續するの必要なるを唱へり其唱ふる所亦全く宜しきに適へりと云はざるべからず

露國は其過去に常に之を痛みたるが如く今日も尚ほ政治界又は軍事界に於て更に傑出せる人物なきに痛み居れり然れども クロパトキン將軍の殆ど輿論全般の同意を以て總指揮官に任ぜられたるものなるは之を許さゞるべからず スコベレッフが赫々たる勳功の餘光は收められて其寵用したる副將の身にあり果斷一たび用ひられて部下の欲せざる所をも强て敢行せんとするの至らば實際又之が餘光の効果現れ來らざるを得ざるなり

其陸軍省に多年を送りたるは又クロパトキン將軍をして露都に於ける軍事行政府の歸向自ら已にあるを確信せしむるに足るものあり是れ出征將軍に取りては貴重なる助力なりとすべし此等の利便と好箇なる露國兵士の剛勇と露國人民の屈せざる愛國心とは皆クロパトキン將軍に取りての光明ある表面なりとす若し之が裏面なからしむれば將軍たるもの亦至幸なる人なりと云はざるべからず然れども專制政治の金字塔には其頂點に當りて皇帝の立てるあり日々否寧ろ刻々に其思ひ出でたる所を吐露し且つ勸告を呈するゝことを得此等は往々にして指揮官より出でたる言と自ら分別し難きまでとあり原來彼の電信なるものは勝手好き小間使にして而も又强情なる主婦たるの狀あり此電信に依りて宮廷に行はるゝ希望、憂虞、勢力、論難みな陳營の間に傳はる皇帝陛下は漸くにして其大帝國の絶東部面に落下せんとする破産の自家政治上の信用に避くべからざる影響を與ふるものなるを感じ出だせり帝位を以て一切の世間的幸福の動かすべからざる泉源にして且つ臥家の上に落下する一切の俗塵の明確なる根本なりとする露國の知さの政治組織にありては是れ蓋し免る能はざる所なるべし帝を稱し且つ政を行ふ主長の上には今や即ち不安の掩うて之を病ましむるものあるなり

露國に於ける人智の發達と且つ民意を發露する手段の益々增加したるとは道義を說くもの必ずしも之を外國の智者に待つを要せざるに至れりイロヴァイスキー教授の近頃モスコー